

あびこの文化

発行人 大洋美崎
我孫子市高野山
250-23
04(7182)
0861

第四十回記念文化講演会、総会 5月2日(土) 13時より開催

今年の文化講演会、総会を次の予定で開催します。
日時 5月2日(土)

一、13時より 文化講演会

講師 村川夏子氏(村川堅太郎氏(長女))

演題 「村川別荘と我孫子―嘉納治五郎との

関わり(仮題)

二、15時30分より 令和2年度総会

場所 アビスタミニホール

今年は創立40周年の節目の年にあたります。

多くの会員の方の出席を期待します。

「嘉納治五郎銅像建立プロジェクト」の報告

一昨年からスタートした「嘉納治五郎銅像建立プロジェクト」につきましては皆さまのご協力で4月15日に除幕式を迎える運びとなりました。改めて紙上を借りて厚くお礼を申し上げます。

今回のプロジェクトは一市民活動団体が発起人になり、それに多くの市民や市民団体が協力して実現したことに意味があります。ご協力ありがとうございました。

現時点での寄附金の状況およびこれまでの経緯についてご報告します。

1. 嘉納治五郎銅像建立基金として集まった寄附金総額7,877,859円(2月15日(台座に名前を刻むための締め切り日)現在)

- ① 個人448名 6,529,145円
- ② 会社関係係7社 575,000円
- ③ 団体19団体 506,471円
- ④ 講演会、募金活動10カ所267,243円

2. 嘉納治五郎銅像台座(の記載について
①「寄附者の名前の記載
まず特筆したいのは今回の募金に協力いただいた、全ての方のお名前を台座に記載します(お名前の分かっていない、または敢えて匿名で寄附をされた方を除く)。

②建立の経緯についての記載
「柔道の父」「優れた教育者」として知られる嘉納治五郎は、大正元年、この地を手に入れ別荘を建てました。

この別荘を大層気に入っていた治五郎は、晩年は一年の半分をこの地で過ごしました。
治五郎の死後は昭和44年までご子孫が自宅として住まれ、嘉納家と我孫子との間には通算60年に亘る濃密な関係が築かれたのでした。

この銅像は「偉大な功績を挙げた嘉納治五郎と我孫子市の関係を市民に深く知って貰い、治五郎が我孫子を愛し過ごしたことを誇りと考え永く歴史にとどめたい」との趣旨に賛同された市民を始めとした有志の方々の協力のもと建立されました。
嘉納治五郎生誕160年、また東京でオリンピックが開催される記念の年にこの銅像をこの地に建立できたことは大変意義のあることと思います。」

3. これまでの経緯
① このプロジェクトを始めた当時の状況
市の所有する土地に設置することから、事前に市に打診し了解が得られる感触を得ていた。

役員会で今回の計画を諮ったところ、一部の役員から「我孫子と嘉納治五郎はどんな深い関係があるのか?」「募金が集まらなかつたらどうするのか?」など一部否定的な意見もありましたが、過半数の賛成を得て総会の決議にかけることになりました。急遽招集した臨時総会では「嘉納治五郎については別荘跡にある市教育委員会では説明板で十分。別荘があつただけで我孫子のために大きな貢献をしたわけではない」など、一部に否定的、懐疑的な意見もありましたが、会員の多くの方が趣旨に賛成してくれました。

② 寄附金の募集

寄附金の募集方法についてもいくつか好意的なアドバイスを頂きました。「インターネットで国内は勿論、広く海外に呼びかける。特にフランスやブラジルは柔道が盛んで、嘉納治五郎はよく知られているので効果的ではないか?」「クラウドファンディングを利用したら?」など、前向きな提案もありましたが、それらは最後の手段として、まずは足元の我孫子市民に理解を得てからとの思いは強く、周辺の友好市民団体の協力を得るべく働きかけ結果的に多くの団体の名称を「ちらし」に掲載させて頂きました。(我孫子の景観を育てる会、我孫子市史研究センター、ACOB A、ふれあい塾あびこ、あびこガイドクラブ、美しい手賀沼を愛する市民の連合会(美手連)、ふるさと我孫子ガイドの会、我孫子市国際交流協会(AIRA)、世界の人間形「後援」として我孫子市教育委員会、我孫子市商工会も掲載



当初、募金の集まり具合は順調とは言えませんでした。後半に入り、大口の寄附もあり、8月には銅像本体の発注に漕ぎつけることが出来ました。

(写真は上・下半身が繋がった治五郎像2月18日現在)

中里薬師堂薬師三尊像および十二神将像

御開帳
我孫子市指定文化財の公開披露

我孫子市中里の中里薬師堂にある「薬師三尊像と十二神将像」は、江戸時代のものといわれている。痛みが激しかったため住民らの寄附により修復がおこなわれていたが、この度、修復が完了したことから、2月15日から18日まで我孫子市民プラザにて公開された。

薬師三尊は本尊の薬師如来と脇侍の日光(にっこう)菩薩・月光(がっこう)菩薩のことをいい、人びとを病氣から救うとされる。また十二神将は十二支と結びついて薬師如来を信じる人びとを加護するとされる。中里薬師堂の薬師三尊および十二神将像の制作年代

は不明だが、十二神将像は少なくとも江戸時代後期、三尊像は十二神将像よりもやや古いものと考えられる。像の高さは台座も含めて薬師如来が約93センチ、両菩薩は約64センチ。十二神将は薬師如来の分身とされ、像は高さ80〜85センチ。十二支の動物を頭上へのせ、刀、やりなどの武器を持っている。

像が作られてから200年以上が経過し、持物(じぶつ)や手足の損失、後年の誤った修理による頭部の入替わり、過剰な塗装および剥落などの破損が著しくなってきたことから、平成27年度より、中里区を中心とした市民の寄附金、市の文化財保護補助金制度を活用し、毎年3体ずつ保存修理を行ってきた。そして5年がかりで完了したものが、公開されたのだ。



中里薬師堂のように本尊と脇侍、十二神将がすべて揃って残されていることは大変珍しく、また貴重で地域の人びとによる篤い信仰と管理がなされてきた。

平成18年3月に我孫子市指定文化財となった。

現在、本尊は秘仏とされ、年に一度2月11日の御開帳に公開されている。(左下写真は

丑・伐折羅大将。頭にそれぞれの干支が飾られている)

追記 今回の修復作業において「亥神像」の差し込み式の頭部を抜いたところ胴体から折れたままれた古文書が見つかり、以下の内容が記されていた。「嘉永六年丑四月吉祥日 一薬師如来 拾貳神造作再光仕候 武州八条領大原村里 大佛師鳥井 十七歳 同庄治郎」



嘉納治五郎の柔道観に見られる女子柔道

美崎 大洋

日本において、近代スポーツが導入されたのは、明治維新後のことである。1872年の教育令と共に8年間(下等4年、上等4年)の小学校教育は男女共に義務化され、学校体育も採用されることになる。しかし、欧米の近代国家と同様に明治政府は「富国強兵」の政策を強調し、特に将来の兵隊になる男子の体育教育に力を入れた。男子の体育教育と違って、女子の体育教育は体操とダンスを中心とし、「良妻賢母」を目的とした。

大正時代に入ると、教育機関での女子を対象にする柔道の指導も始まる。さらに講道館への女子の入門が始まったのは、1893年のことであるが、これは講道館が設立されてから約10年のことである。当時の社会を考えると、女子のスポーツは初期の段階であったことには間違いない。したがって、女子に身体接触がある武術を教授するのは進歩的な考えであり、反対する声も多かったと考えられる。嘉納は女子柔道を普及させるために、健康を向上させる体育と護身術を目的とした柔道を指導し、女子の試合を禁止することにした。さらに女子の特性と女子の試合を禁止した理由について次のように述べている。

「殊に女子は男子に比べ体力体質に於いて更に精神的方面に於いて大なり小なりの相違がある上、若い女性の殆ど総ては他日母となることが予想されておるのであるから、上記国民体育の練習によつて身体を鍛え、受身は勿論、乱取に耐え且つ之に適する体力を備えた上でなければ、乱取に移つてはならない。女子柔道修行者に対してくれぐれも望むところは、飽く迄合理的で決して無理せぬことである。無理は怪我と病気の基、女子柔道に試合とか勝負とかを禁じておるのは、勝負や試合になると、勝ちたい、負けたくないの一心からとかく無理をするようになり、又それが原因で病気を引き起こしたり、最悪の場合は一生涯を台無しにするような不幸を招くこともないとは限らな

い、そういうことを慮るからである」(「嘉納治五郎」講道館嘉納先生伝記編纂会1964)。

嘉納は女子の身体的な特性と女子の「良妻賢母」としての社会的な役割を考慮しながら、女子を対象にする指導法を考えた。まず基礎体力を付けるために、精力善用体育の形を指導し、受身も教えることにした。最終的に体ができてから乱取に進むことにした。講道館初の女子指導員となった乗富政子(福岡県出身)は嘉納師範の女子柔道に対する理念について「師範は体力的に優れた男性による力技の柔道よりも、体力のない女性の柔軟さの中にこそ真の柔道が受け継がれていると考え、女子柔道を普及させるべく、女子には女子の指導者をと、限らない努力を続けておられたようであった」と述べている。

あびこだより 91号

アングルン演奏に寄せて

「アングルンの会代表 萩原 法子

ある日、息子がお世話になっていた近くの「さかえ保育園」に伺ったとき、玄関に今まで見たことがない竹でできたものが置かれていた。アングルンというインドネシアの伝統楽器だ。四角い枠に竹の筒をくっつけたような不思議な形。長さが違う8本のうち1本を揺するとコロコロという柔らかい音がする。8本の1本ずつはドレミファソラシドを表し、1つは1音しか出さない。竹製なので、軽くて振るだけで心和む音がする。これは歳をとつても車椅子になつても生涯音楽を楽しめるなどと思つていたら、保育園の先生から「萩原さん使えうならどうぞ」と言われる。さかえ保育園がインドネシアに保育園を創る活動のお礼として、いただいたと言う。20数年前、私は自治会の役員として地域の高齢化とコミュニケーション問題を解決するため、北国分ふれあいボランティア・「結いの会」を立ち上げ、地域内の「いきいきセンター」を拠点にスケッチ、俳句、写真、囲

碁、切り絵、折り紙などの会を設けていた。そこで更にアンクルンの会も始めることにした。17年前である。アンクルンはどんな楽器？

全て竹で作られている。釘1本、留め金1つ、人工のものを使わない楽器は珍しい。

竹筒を2, 3本、細い竹で組み合わせたものを1つのパーツとする。振ると、竹同士がぶつかり合つて音を出す。竹の長さによつて音程が変わる。低音は長く、高音は短い。半音もある。竹という自然素材のアンクルンは、温度や湿度によつて常に音色を変える。竹の産地も同じところがいいといわれバンドンの竹が使用されることが多い。



アンクルンはかつて、作物の収穫を祝い、感謝する宗教行事で用いられ、ユネスコの無形文化遺産にも登録された。インドネシアでは、竹にはパワーが宿ると信じられていて、竹を手で震わせるアンクルンは、近年は手が不自由な方や脳卒中の方のリハビリにも使われている。日本でも音楽療法に広く取り入れられてきた。

アンクルンの立ち上げ

私もアンクルンは、聞いたこともなく、見るのも初めて、まして持ち方から演奏の仕方など何もわからない。ネットで調べたり、インドネシア大使館に電話したり、いろいろするうち、千葉インドネシアソサエティという団体にたどり着き、アンクルンアンサンブルのコンサートを聴けた。雰囲気かわかり、さっそく立ち上げ開始。「赤いくつ」という童謡の会の仲間へ声をかけ20人始める。やり方は試行錯誤の連続。曲の階名と同じ音のアンクルンに同色のシールを貼つたり、振り方の強弱を考えたり。どんな曲がやりやすいかなど皆で話しあいながら、月2回の練習をし、大分慣れた3か月後の敬老の集いに皆さんの前ではじめて演奏した。

アンクルンの会の活動

練習は第1と第3の水曜日午前中。童謡から抒情歌など四季折々の曲を季節に合わせて選び、まず階名で歌い、自分が持つ音の確認をしてから練習に入る。曲によつて多い音もあれば曲全体に1回振るだけの音もある。1回だけと油断していると大変なことになる。適度な緊張もあり脳トレにとっても良い。

年に数回ボランティアで演奏活動に出向く。保育園や学校、博物館や公民館、病院や老人施設、寺など。つい最近、船橋駅近くの病院に伺った折、失語症で言葉が出なかつた人がアンクルンの音に合わせて歌を歌い始めてスタッフの方がびつくりされたり、マイクを向けたら「君が1代おーは」と歌いだされたり、認知と言われている方からの達筆なお礼状をいただき感激したり、いろいろこちらも楽しませていただいている。

以前は音域の広い難しい曲や上下に分かれての合奏もしていたが、最近はメンバーの高齢化も進み、ご主人の看病、自身の体調などで人数が減り、思うような曲が演奏できないのが残念。

「つばやき」あるイベントに呼ばれたときの紹介

「アンクルンの会の方々です」と言われ、思わず

「エッ？」急いで「んを付けてください」と言いました。

アンクルンはおじさんですものね。

放談クラブ講演内容

「破壊消防から機械消防へ」(その4)

稲葉 義行

(一) 昭和初期

昭和に入り関東大震災を教訓に「消防力の劣勢をどう補うか」という課題が初めて提起されましたが、現在においても依然として震災対策上の重要な課題となつています。

「119」番通報は昭和二年から使用されました。

大正十五年の西巣嶋の火災を最後に、東京では百戸を超える火災は起きておらず、昭和時代の火災の推

移は一般住宅の火災から大規模建物火災となつてきました。昭和七年十二月の白木屋デパートの火災が象徴的です。白木屋デパートの火災は、現代の大規模高層建物火災の防御対策及び火災予防対策に多くの教訓を残したので説明します。

鉄筋コンクリート造八階建て延べ面積約三万三千平方メートルの白木屋の火災は、東京の消防が体験した初めての大規模高層建物火災でした。この火災が社会に衝撃を与えた理由は、人々が漠然と抱いていた鉄筋コンクリート造の建物は燃えないというイメージを打ち破つて、日本橋に建つ大百貨店がかくも簡単に炎上し、多数の死傷者を出したことにあります。建物は耐火造でも収容物が燃えることの理解がなされていなかったことによります。昭和六年十二月一日、白木屋京都分店の二階から出火し洋館三階建てを全焼した火災があり、白木屋では昭和七年十二月二十四日から翌年一月七日まで、火災を出さないための「火事展」の開催を予定し、十二月七日消防とその打合せをした矢先のことでありました。昭和七年十二月十六日午前九時十五分頃、歳末大売り出しとクリスマスディスプレイに飾られた四階の玩具売り場から出火し、山積みになされたセルロイドの玩具に燃え移りました。出火原因は、午前九時頃、数日前に取り付けたクリスマスツリーの装飾用の豆電球に故障が生じたため、係員が修理を始めたところ、突然豆電球がスパークしてクリスマスツリーにかかった金モールを伝わって、傍らに陳列してあったセルロイドに引火したものです。(セルロイドは、現在では危険物としての規制を受けている極めて引火しやすい物品ですが、当時はデパート等で陳列する場合には何等かの規制を設けていませんでした。)

日本橋消防署望楼は、午前九時二十三分に火災を発見、日本橋消防隊到着時には、四、五階の窓から火焰が噴出していました。同店は開店したばかりであったので買い物客は三百人程度、店員は千六百人ほどいました。

日本橋消防署のはしご車は四階に架梯し、一四人を

救出さらに五階(伸梯して救助袋を下げ、バルコニーにいた約二十人を救助しました。六階はロープを投げて要救助者に手すりに縛ってもらい、それを伝わって隊員が六階に上がり救助袋を引っ張り上げ、二十余人を降下させました。はしご車は七階まで届かないため鉤付き梯子を七階のベランダに架けようとしたが短くて宙に浮いた状態であり、十数人の逃げ遅れた人は恐怖で動けなかったため、一人ひとり胴を綱で結び六階まで降ろし、そこから救助袋で救出しています。丸の内消防署のはしご車は新館東側を担当しています。現場到着時、六、七階から避雷針や窓からつるした反物を伝わって降りようとして、力尽きて墜落する人もいました。そこで、直ちに、これを制する一方で六階に架梯し、待ち構えていた男女約七十人を救助し、さらに場所を移動し同じく六階から二十五人を救助しました。神田消防署は北側背面に部署し、はしご車を六階に架梯しようとしたが、進路が狭く電線障害等もあって完全には架梯できなかったため、先端の消防手が窓にロープを投げようとしたところ、周囲にいた人々が梯子の支索を無理に引っ張ったので梯子は折れてしまい、消防手は墜落して重傷を負いました。二千三百平方メートルの屋上は、第一次避難場所として有効であり、消防隊は防煙マスクをつけ、店員専用の階段から店員に水を浸したハンカチを口に当てさせ避難誘導しました。この活動で救出人員二百八十人、屋上からの誘導百二十人、死者十四人で死者のうち過半数は若い店員さんでした。延焼に至った原因は種々ありますが、各階が三千三百平方メートルの広さを有するにもかかわらず、間仕切りやシャッター等の防火区画もなく、縦穴区画も不完全であったことによるものです。

昭和初期の消防で画期的な事案は、救急業務の開始です。

わが国における救急業務は昭和八年横浜市の横浜消防署に救急車を配置したのが始まりで、昭和九年には名古屋市の中消防署が二台の救急車をもって救急業務を開始しました。東京でも、自動車の増加は交

通事故の増加をもたらし、昭和元年に六千件であった交通事故は昭和九年において三万件を超え、消防部は、昭和十一年一月から六台の救急車(原田積善会)をもって、救急業務を開始しました。

(四)戦時期

消防においては、職員の出征や占領地域への派遣など、戦争の影響が日増しに強くなってきました。

昭和十六年になると特設消防の強化は国の重点施策となり、警防地区隊制度を開始して、空襲時における円滑な部隊運用を図ってきました。併せて、勤労動員の学生を消防業務に従事させる等人員の増強に努めています。しかし、戦争の激化に伴い消防職員の戦場への応召等があり、職員の確保が困難となってきました。昭和十八年八月十日、内務省訓令により、職員の採用資格を二十歳から十七歳に引き下げて年少消防官を採用することになりました。

昭和二十年一月には警防団員(防護団と消防組が合併したもの)、学徒報国隊員の中から約一万人を特別消防員として採用しました。勤務は三部制で当番日には消防署長の指揮下に入り、消防署で勤務し、水災の警戒防壁に従事させました。給料は手当含め約七十円、待遇は消防職員並みでした。

一方、ポンプ車の増強については、昭和十九年末には八十五台に増え、これとは別に昭和十九年三月から関東近県等から三百七十七台のポンプ車と九百二十五台の手引きガソリンポンプの供出を受けました。

昭和十七年十一月皇居や御所警備のため特別消防隊を設けております。この隊の訓練はとりわけ厳しいもので、一人体の六割は水分であるから消火手段が何もない時は腹で押さえて焼夷弾を消せと教えられています。

昭和二十年五月二十五日の空襲で、東京は文字通り瓦礫の山と化し、アメリカは攻撃目標を全国の中小都市に変えてきました。

昭和二十年六月二十五日内務省から、裏日本の要港防壁として、消防隊の派遣要請があり、消防部では応援隊の出身者を選抜し、ポンプ車と職員を関東・東

北の各県に派遣しております。(私が消防署に配置になったとき、顔面に大火傷を負った先輩がおられ、この火災で負傷したのか尋ねたところ、戦時中、出身の青森市に派遣され空襲で負傷をし、退院後東京消防庁に復帰したと話してもらいました。)

終戦後、これら派遣されていた職員に対し、昭和二十年九月十二日に内務省から引き上げ通知が出され派遣隊は各所属に復帰しています。(次号(最終回)に続く)

プロジェクト報告

我孫子の巨木・名木を訪ねる会

「樹木観察会報告」第31回

【千葉県立船橋県民の森の樹木・植物観察会】

実施日二月二十一日(金)

牧田 宏恭

今回は、巨木は期待できないものの、色々な樹木・植物の観察のできる場所として、「県立船橋県民の森を訪ねた」。「県民の森」は、県民の健康増進、そして心の癒し場所として造られた公園だ。千葉県内には、船橋を含む6か所があり、東葛地域は、ここの一か所である。

さて、先般来、連日、日本国中いや世界中が、今後の成り行きを、危惧する「新型コロナウイルス感染症」報道の最中であるが、我々7名(紅一点・女性含む)のウィルスを跳ねのける元氣者が参加した。プロジェクトリーダーは、佐々木侑さんである。

我孫子駅から松戸経由、新京成線に乗り換えて、目的地最寄り駅「三咲」に9時30分到着。バスに乗り換え、約10数分で「県民の森バス停」にて下車。森に向かう。

この付近を含む近辺は、徳川幕府時代に、広大な土地を利用し、軍馬飼育等に使用された「下野牧(しものまき)」の一角だった地域で、「野間土手」の名残も各所に見られる様だ。

歴史を遡ると、明治政府はこの地域を含む東葛地域に「窮民対策」の一環とし、民間の力も活用し、各地から開拓民を送り込み、順に開拓地とし開発した歴史があることを私は且つて学んだ。

開拓地は順に名付けられ、「初富」「二和」「三咲」「豊四季」「五香」等々身近に耳にする。

本日は、「三咲」に因む地域にある「船橋県民の森」の散策である。この森は、かつての「牧」に重なる地域で、船橋市とは言っても、白井・鎌ヶ谷市に近い位置にあり、面積が約15ヘクタールの、全域がほぼ平坦な森である。開設時期は不詳だ。

バスを降りた交差点に「二十三夜供養塔」がある(写真1)この供養塔は文政二年(1819年)に地元神保(じんぼ)新田の人が「観音経」を1万回唱えたことを記念して造立、「読誦塔」で、この地を通る人々に「道標」を兼ねていたとのこと。「県民の森」の外、南角に位置し、現在の印西市・船尾、同木下への道案内をする役割であったようだ。

さて、これより程なく入る「船橋県民の森」について順を追って観察する。

1. 西口入り口より「野鳥の森へ」

10時5分過ぎに入り口の公園全体ガイドマップ板を観ながら、「スギ」と「シラカシ」などが左右生い茂る木立(写真2)を進む。

我々の道筋に「千葉の健康と癒しの森



30選のコース:セラピーコース」の案内パネルもあり、多くの人が散策を楽しめる森だ(写真3)。

小径は「リスの道」と案内されているが、この時期、冬眠中の「リス」の姿は全く見られない。マップに案内のある「野鳥の森」付近に入るが、野鳥の鳴き声・姿

も無い。この森のみならず、この数年はめっきり野鳥が姿を見せなくなっているようだ。余談だが、私が毎朝のように散歩する、愛する「我孫子・手賀沼遊歩道」にも、その姿を見ることが本当に少なくなつた。地球温暖化の影響によるものかと、心配である。道筋の木立には「スギ」「シラカシ」が目立つが、「シデ」も多い。

2. 「野鳥の森」から「運動広場」へ

10数分歩く。木立の向こうに広場が開けた。「運動広場」だ。サッカー競技が十分に行える広さの広場の周りを、樹高20メートル位の「トチノキ」と、雌雄それぞれとみられる「イチヨウ」が囲んでいる。拾われずに済んだ「ギンナン」の実が、ひっそりと身を隠している。「サクラ」もあるが、種類は分からない。サクラの開花時には、見事な風景を楽しませてくれそうだ(写真4)。

地べたに落ちた「トチの実」を見ると、早や小さな芽を出している。早すぎるのではと思う。「トチの実」は、

戦後の食糧枯渇時には重宝されたこと、昔、親から聞かされたことが、ふと思ひ出された。「シイの実」も同様だ。時刻は、10時15分、早足で進む。

「県民の森」と繋がっているように見られる「船橋市青少年キャンプ場」に入った。



整った「キャンプ施設」を通り抜け、いったん「県民の森北口」にでた。時刻は10時35分を回った。

3. 県民の森北口「フィールドアスレチック管理事務所」

続いて「青少年キャンプ場」を左に見ながら、比較的広い林道を数百メートル進み、右折して小径に入ると間もなく、フィールドアスレチックのある「管理事務所」前広場に到着(写真5)。時刻は11時少々前である。ここは、「県民の森」を利用する多くの人達が「バーベキュー」を愉しむ絶好の広場になつていて、設備も整っている様だ。広場にはシンボルツリーの「トチノキ」がある(写真6)。樹高は10

数メートルもあるうか? 枝ぶりは見事だ。若干の休憩を摂る。時刻はまだ11時。続けて、「セラピーコース」散策に入った。通称「モミジの道」を、再び北に戻る方向に「セラピーコース」を進む。「セラピーコース」は、先程通つて来た小径近くに、若干短絡したコース(全長:1.1キロメートル)として整備されている。

コースに入つて間もなく、大きな倒木に遭遇。樹高20メートル近い「シデ」の様だ。何本かが折り重なる状況で無残な様相である。おそらく昨年秋に当地方を直撃した台風によるものと思われる。その他、幹途中で折れた樹々が、あちらこちらに散見され、災害の残した爪痕は、その恐ろしさを見せつける(写真7)。

「境界堀」の橋を抜けても同様の風景が多くみられる。「境界堀」は「野間土手」と「牧」の境に設けられ





た堀の名残の様で、木橋が架かっている。この森の中にも「野馬堀」らしき箇所がある(写真8)。

このルートには、「イヌシデ」、「ゴブシ」、「エゴノキ」、「シラカシ」が群生しているとの案内マップがあるが、落葉期の今は分かりにくい。「スダジイ」も多い。また、小枝にトゲの目立つ「ハリギリ」も所々に見られた。また、樹々の周りは「クマザサ」が群生、その葉っぱが、木漏れ日を浴び光る情景も美しい。

5. 「モミジの道」〜「キノコの森」〜「本日の入り口(北口)」

季節柄、「モミジの道」は、紅葉はもちろん青葉若葉も見られず、通った印象は全く無いが、その中、「シラカシ」や「スダジイ」が多く見られる木立に「シイタケ」を人工栽培している場所があり、今の時期にも、しつかりと「シイタケ」の姿を見つれることができたことは驚きである。この一角で参加者の記念撮影(写真9)。



本日の散策スタート地点の「県民の森北口」入り口に到着。公園内を1時間40分、「コロナウイルス」を吸い込む心配の無い空気を満喫

できた。行程、約6,300歩(4キロメートル強)の散策であった。

三咲駅に戻るバスを途中下車し、散策の総括をしながら、昼食を摂り帰路に就いた。

「県民の森」の真向かいに、本日は休園だった「船橋アデルセン公園」もある。今後、訪れたい。以上。

第91回百人一首を楽しむ会

一月三十一日実施

飯高美和子

美崎 大洋

今月の歌

1 天の原よりさけ見れば春日なる

三笠の山に出し月かも

(007)

(現代語訳) 広い空を振り仰いで眺めると美しい月が出てくるが、あの月はきつと故郷である春日の三笠の山に出た月と同じ月だろう。(ああ、本当に恋しいことだなあ)

(作者) 阿部仲麻呂(大宝元年(701)〜宝龜元年(770)、大和の国に生まれ、若くして優れた学才を現し十六才の時に遣唐使・多治比県守に従つて、留学生として唐に渡つた。玄宗皇帝に仕え、李白や王維らの著名人と交際し、文名が高かったと伝えられている。

三十年近くの滞在の後、仲麻呂が五十一歳の時、玄宗皇帝に帰国を願ひ出て帰路に着いたが、その途中で嵐にあい安南に辿り着いた。

(遣唐使) 日本が唐に派遣した使節。日本側の史料では唐の皇帝と同等に交易・外交をしていたと記して対等な姿勢をとろうとしたが、唐の認識として朝貢国として扱ひ唐の文獻では、「倭国が唐に派遣した朝貢使」とされる。中国では六一八年に隋が滅び唐が建つたので、遣隋使に替えてこの名称となつた。寛平六年(894)に56年ぶりに再開が計画されたが、九〇七年に唐が滅び、そのまま消滅する形となつた。遣唐使船には、多くの留学生が同行し往来して、政治家・官僚・僧にも多くの人材を供給した。

中国の先進的な技術や政治制度や文化、ならびに

仏教の經典等の収集が目的とされた。遣唐使は日本からは原材料の朝貢品を献上し、唐皇帝から質量の高い返礼品の工芸品や絹織物などが回賜として下賜されるうまみのある公貿易で、物品は正倉院にも残る。

2 有明の月

今来むといひしばかりに 長月の

有明の月を 待ち出でつるかな (021)

有明の つれなく見えし 別れより

暁ばかり 憂きものはなし (030)

朝ぼらけ 有明の月と 見るまでに

吉野の里に 降れる白雪 (031)

ほととぎす 鳴きつる方を ながむれば

ただ有明の 月ぞ残れる (081)

有明の月とは、満月以降の夜明けになつても残つている月を指すが、特に二十三日以降の夜明け前に残る細い月をいう。日の出とともに太陽の光で月は見えなくなつてしまふ。遅い月の出を待ちわびる様を、また出ですぐ見えなくなつてしまふ有明の月に恋のせつなさ・つれなさを重ね合わせたものが多く見られる。

月見れば千々にものこそ悲しけれ

わが身ひとつの秋にはあらねど (023)

今月の雑学(1)

月

英語では天体の日と一日の日を、"sun"と"day"に分けているが、日本語ではどちらも「日」を使う。また天体の月と一ヶ月の月は、英語では"moon"と"month"だが、こちらも日本語では両方「月」と表現する。これを活かして作られたのが次の和歌。月が八つも入っている。月々に月見る月は多けれど月見る月は(一)の月の月 (よみ人知らず)

一日は日の動きを基準に、一月は月の満ち欠けの周期を基準にしていたから、どちらも生活に密着した天体だった。しかし日本では万葉の昔から日を詠んだ歌は少なく、月の歌は数え切れないほど詠まれてきた。星については七夕のとき詠まれるくらいで、日本人は昔から、月に特別に親しみを感じてきたようだ。

「月が入った言葉」
形の変化の様から子

盈月(えいげつ) しいに円くなっていく月。三日月から十五夜、望に向かう月、虧月(きげつ) 満月からしいに欠けて新月に向かう月。

月の形や満ち欠けから

朔(さく) 新月のこと、眉月(まゆづき) 「びげつ」とも呼び、眉のような形の月、纖月(せんげつ) 三日月など細い月、三日月(みかづき) 本来は月曆二日の月をいう。広く一般的に眉のように細い月を呼ぶことも多い、片割れ月(かたわれつき) 半分、またはそれ以上欠けた月、↓逢ふことは片割れ月の雲隠れおぼろけにやは人の恋しき(人鷹)、片月(へんげつ) 半分、またはそれ以上欠けた月(片割れ月に同じ)、上弦(じょうげん) 右半円状の月。半月、下弦(かげん) 左半円状の月。半月、弦月(げんげつ) 上弦・下弦の半月をいう、弓張り月(ゆみはりづき) 上弦、または下弦の月、彎月(わんげつ) 弓張り月のこと。彎とは弓を引き絞ること、偃月(えんげつ) 半円形の月、月の輪(つきわ) 月のことで、特に満月をいう、満月(まんげつ) 文字どおり満ち欠けない月。一般的に十五夜をさす場合もあるが、十五夜は必ずしも満月ではない。

時間や位置から

暁月(あかつき) 暁の空に残っている月。普通、下弦から二十六〜二十七日月くらいをさす。↓暁月夜(あかつきづくよ)、有明の月(ありあけのつき) 有明の月、暁月夜、残月は同じような月をいうが、有明の月といった場合、枕草子にあるように夜明け前、東の空から昇る。王六日前後の細い月を指す場合が多い、残月(ざんげつ) 有明の月のこと、斜月(しゃげつ) 斜めに照らす月。西に沈もうとしている月、名残の月(なごりのつき)

ごりのつき) 夜明けの空に残る月。月曆九月十三夜(仲秋の名月の名残という意味か)の月をいう時もある、夕月(ゆうづき) 夕空に残る月。夕月夜(ゆうづきよ)、宵月(よいづき) 宵の間だけ出ている月。季語は秋。宵月夜(よいづきよ、よいづくよ)、宵とは、日暮れの頃をいう。広義では夜中になるまでの間。ということは三日月あたりから満月前の月あたりまでを呼ぶことになる。夕月と同じような意味あいで使われたと思われる。

今月の雑学(2)

節分(せつぶん、または、せちぶん)

節分は、各季節の始まりの日(立春・立夏・立秋・立冬)の前日のこと。節分とは「季節を分ける」ことをも意味している。江戸時代以降は特に立春(毎年2月4日ごろ)の前日を指す場合が多い。以下、立春の前日の節分、およびその日に行われる各種行事について述べる。

豆撒き

豆を撒き、撒かれた豆を自分の年齢(数え年)の数だけ食べる。また、自分の年の数の1つ多く食べると体が丈夫になり、風邪をひかないというならわしがあるところもある。豆は「魔滅」に通じ、鬼に豆をぶつけることにより、邪気を追い払い、一年の無病息災を願うという意味合いがある。寺社が邪気払いに行った豆打ちの儀式を起源とした行事であり、室町時代の書物における記載が最も古い記載であることから少なくとも日本では室町時代以降の風習であると考えられる。初期においては豆は後ろの方にまくことが始まりだった。

恵方巻、恵方巻き(えほうまき)

恵方巻は、節分に食べると縁起が良いとされる太巻き、またはそれを食べる大阪を中心とした風習。別称として「丸かぶり寿司」「恵方寿司」「招福巻」「幸運巻」「開運巻き寿司」などと表現されることもある。恵方とは、歳徳神(としとくじん)、その年の福德(金運や幸せ)を司るという神様のいる場所を指す。

第二十一回短歌の会(最終採択の一首)

一月二十八日実施

暖冬と言ふも夜更は冷たかり

冷蔵庫かすか溜息をつく

大島光子

今もなほ苦しみのこる別れを思ふ

あの日あじさい咲き初むる頃

佐々木侑

夫を置き友と一泊の旅に來ぬ

專業主婦のいきぬきの時

納見美恵子

細やかな悦びのあり歩み來て

枯草の中に水仙の萌ゆ

飯高美和子

また同じ言葉に友より年賀状

「本年こそは是非会いましょう」

美崎大洋

ほかほかに干せる布団にもぐり込む

日の匂ひして母の温もり

藤川綾乃

年の始めにみ堂を囲む竹灯笼

にぎにぎしきを見る人のなし

三谷和夫

空映す水面に白きしぶき上げ

遊覧船は橋をくぐりぬ

村上智雅子

「創立40周年記念誌」の原稿を募集します

締切り 9月末ごろ

内容 論文、随筆、俳句、短歌など自由です

形態 デバイス デジタルファイルが望ましい

ですが、紙ベースでも構いません
記念誌発行 令和2年度中を予定しています

文学掲示板

令和二年五月展示作品(文学の広場)

ハクレン魚数多住みある利根川に
鮭呼び込むは難しと思ふ

取手 関澤 喜久子

利根川の古き形を忍ばせる
二日月湖ありさくら湖という

取手 三浦 みどり

突然に鶯の声きこえくる
冬鳥去りし沼のあたりに

我孫子 田口 ふみ

老いしま何故にこうまで身を責める
主義を咎めし父との諍(いさか)い

我孫子 山崎 日出男

仙丈の前に北岳横に富士
それぞれ迎ふ益荒男我を

我孫子 藤井 吉彌

まつかなる林檎その名を知らぬまま
かぶりつきたし信州の空

我孫子 佐々木 侑

楚人冠俳句「序跋詩歌集」より 杉村楚人冠

昭和十一年 春

右手(うて)に焼く目刺左手(ゆんで)手酌かな

黄昏を灯(とも)さで語る春の宵

春潮の寄する小島に鳥啼けり

江間ふさぐ水入舟や春の雨

大いなる草餅をたゞ眺めたき

いたいけの董(すみれ)にざる蝶でかし

残雪を峽(かひ)の彼方に見出たり

麗(うら)らかや坂東太郎おほどかに

短夜の寝湯生ぬるき夜勤かな

今後の行事予定

□ 第137回史跡文学散歩について

「八柱霊園に我孫子ゆかりの偉人の墓と桜の花を訪ねる」

八柱霊園は松戸市にあるが、東京都の管理下にある。歴史的には昭和10年7月、東京市営の霊園として設立され、さらに昭和19年の都制施行により東京都に引き継がれた。面積は105ヘクタール(約1平方キロメートル)、東京ドーム約20個分の面積に相当する。700メートルの参道の両側にはケヤキ並木を有し、長方形の敷地の半分が墓所、残りは園路、植え込み地、広場などの公園になっている。春には見事なサクラの花を愉しむことができる。

埋葬されている人の中には有名人も多くいるが、そのうち我孫子ゆかりの偉人としては、
嘉納治五郎：柔道創始者、教育者、国際オリンピック委員で我孫子に別荘と農園を持っていた。墓地には鳥居を構え、楚々とした奥津城であり、神式の珍しい形の墓石が特徴である。

血脇守之助：我孫子生まれの歯科医、教育者で、野口英世を支援した人物として知られている。

杉村楚人冠：新聞記者、随筆家、俳人で我孫子に別荘を構え、晩年は我孫子に移り住んだ。

日時 3月31日(火)9時我孫子駅集合

講師 伊藤一男氏(当会副会長)

コース 我孫子駅(新松戸駅乗り換え)ーJR新八柱駅ー八柱霊園(行程約3時間)

参加費 会員 無料 非会員 500円

申し込み伊藤までTEL090-2452-15882 (SMSも可)

□ 「放談くらぶ」

日時 4月19日(日) 14時〜16時

会場 アビスタ第2学習室

演奏 「アングルンの会」の皆さん

演奏曲 「荒城の月」「故郷」「証城寺の狸ばやし」他(2ページ)あびこだより91号(参照ください)

◎参加費 会員無料 非会員200円
申込みTEL&FAX(七)一八五〇六七五 佐々木まで

□ プロジェクト「短歌の会」予定

第二十二回短歌の会

日時 3月24日(火) 13時30分

場所 けやきプラザ 10階小会議室

□ プロジェクト 巨木植物観察会

第三十二回「樹木観察会」上野公園の巨木観察

日時 3月26日(木曜日)

集合 8時30分頃、我孫子駅改札口内

行き先 上野公園

目的：上野公園内の巨木を巡り、公園の歴史を訪ねます。今年には桜の開花が早いので、お花見も兼ねます。

□ 友好団体の催しもの、情報など

我孫子市市制50周年記念「手賀沼と民藝の心展Ⅱ」

主催 手賀沼アート・ウォーク実行委員会、教育委員会

日時 4月18日(土)〜29日(水)

場所 あびこ市民プラザ

期間中、次の予定で当会会員の講演があります。

講演 4月20日(月)「我孫子と嘉納治五郎」美崎大洋

4月21日(火)「我孫子に白樺村をつくった 柳宗悦」伊藤一男

4月22日(水)「志賀直哉ゆかりの道」越岡禮子

4月23日(木)「武者小路実篤 我孫子での日々 志賀直哉と柳宗悦の絆」村上智雅子

22日は10時30分から11時30分、他は2時〜3時

編集後記

連日「新型コロナウイルス」の話題で持ちきりである。「濃厚接触」や「市中感染」など耳新しい言葉も登場した。▲現時点では特効薬もワクチンもなく、国内流行が始まり拡大しつつある現在、外出を控え、手洗いなどの個人衛生に努めるしかない。▲過去にも今回のようなパンデミック(感染症などの世界中の流行)が度々生じ、そのたびに人類はこれを撃退してきた。本当にウイルスと戦っているのは寝食を忘れて臨床試験を続けている研究者であろう。今回の新型コロナウイルスも数カ月うちに消えていくであろうと信したい。(美崎)